

2024年11月14日

各位

会社名	株式会社ショーケース
代表者名	代表取締役社長 平野井 順一 (コード番号：3909 東証スタンダード)
問合せ先	コーポレート本部長 兼 経理財務部長 濱邊 英明 (TEL 03-6866-8555)

減損損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年12月期第3四半期会計期間において下記のとおり減損損失を計上するとともに、2024年2月14日に公表いたしました2024年12月期の通期連結業績予想につきまして、下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 減損損失の計上について

(1) ソフトウェアの減損処理

2024年12月期第3四半期会計期間において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、DXクラウド事業に係る固定資産（ソフトウェア）の減損損失として302百万円を特別損失に計上することとしました。

また、今後も事業成長のためにソフトウェア開発を行う方針であるため、これに関連する開発費用は今後も生じると見込んでおります。このようなソフトウェア開発のうち資産計上に相当する金額を第4四半期会計期間においては30百万円（見込み）を通期業績予想に織り込んでいます。

(2) のれんの減損処理

当社が2022年7月に事業譲受した「AI・高性能チャットボット スグレス」事業について、事業環境の変化を背景として将来の回収可能性を検討した結果、同事業に係るのれんを減損損失として167百万円を特別損失に計上することといたしました。

なお、2024年第2四半期会計期間ですでに計上している減損損失額を含めた第3四半期累計期間の減損損失の合計額は484百万円となります。

2. 通期連結業績予想の修正について

(1) 2024年12月期通期連結業績予想数値の修正（2024年1月1日～2024年12月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,400 ～8,500	70 ～140	60 ～130	75 ～110	10.77 ～15.83
今回修正予想(B)	6,230	△190	△260	△750	△107.77
増減額(B-A)	△2,270 ～△1,170	△330 ～△260	△390 ～△320	△860 ～△825	△123.60 ～△118.54
増減率(%)	△26.71 ～△15.81	—	—	—	—
(ご参考) 前期連結実績 (2023年12月期)	5,683	△285	△298	△117	△14.61

(2) 修正の理由

当社の主力事業であるDXクラウド事業においては、中核サービスの「ナビキャストシリーズ」は堅調に推移しているものの、成長を見込んだ「ProTechシリーズ」と新たな戦略商品に位置付けた「おもてなしSuite」の展開が当初想定より遅れ、顧客単価の伸び率が想定値に達してないことから、予想を下回りました。また、クラウドインテグレーション事業部におけるシステム受託開発事業は、新規案件の創出は順調に進んだものの、受注までのリードタイムが想定より長期化したため、今期の売上は一部にとどまりました。

一方、広告・メディア事業においては、Googleのアルゴリズム変更の影響により、一部のSEOメディアにおいて順位変動がある中で、「ショーケースプラス」による新メディアを新たに立ち上げるなど挽回を図りましたが、主力のスマホメディアに回復は見られたものの事業全体では予想を下回る見通しとなりました。

情報通信関連事業を手掛ける子会社のReYuu Japan株式会社（東証スタンダード：9425）においては、前年を上回る売り上げの拡大と収益改善の見通しではあるものの、新規販路の開拓や調達体制の強化において一部の契約の締結や、グローバル展開に伴う体制構築、調達先との調整に想定以上の時間を要し、計画からは遅れが生じることにより、予想を下回る見通しとなりました。

これらの影響により営業利益、経常利益は前回予想を下回ることになりました。

加えて、上記1に記載の通り、特別損失として減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益も前回予想を下回ることになりました。こうした状況を業績予想に織り込み、2024年2月14日に公表した通期連結業績予想における売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益をそれぞれ修正いたします。

(注) なお業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性がございます。

以 上